84

『鍼灸資生経』の引用文献について

足立　美穂
日本鍼灸研究会

【緒言】『鍼灸資生経』（以下，『資生経』と略記）七巻は，南宋の王執中により編纂された鍼灸書である．巻一では身体各部の孔穴の位置・主治・鍼灸法，巻二では鍼灸についての注意事項や禁忌などが解説されている．巻三以降には，病門別に病證を列挙し，治法や主治穴が挙げられている．また，全巻に渉って多くの文献が引用されている．

本書は南宋以前の灸法中心の鍼灸の掉尾を飾る一書であるとともに，後世へも大きな影響を与えた重要な一書である．以下，『資生経』に引用される文献について調査し，『資生経』研究の一端とする．

【調査方法】『資生経』における引用文献名を抽出し，その引用回数の調査を行った．底本には，元・天暦三年葉日増広勤書堂刊本（『東方医学善本叢刊』所収，オリエント出版社，2001年）を使用し，判読困難な箇所については，日本・寛文九年刊本（内閣文庫所蔵，函架番号304-248，多紀元胤手校本）によって補った．

【調査結果】 書中における引用文献名の表記は，必ずしも統一されていないが，同定出来うるものに関しては統一して記載し，判断しかねるものについては，書中の表記のまま記載した．『資生経』各巻における引用文献とその回数の概略は，下記の通りである．

巻一：『明堂』184回　『銅人』69回　『千金』65回　『明堂下経』65回　『甲乙』53回　『素問』34回　『素注』53回　『難経疏』12回　『外台』4回．
巻二：『千金』16回　『明堂下経』15回　『素問』4回　『甲乙』3回　『明堂』3回　『銅人』3回　『小品』2回．
巻三：『千金』116回　『銅人』66回　『明堂下経』60回　『明堂』60回　『甲乙』12回　『素問』7回　『難経疏』7回　『千金翼』7回　『必用方』5回　『外台』3回　『既効方』3回　『本事方』3回　『集効方』3回．
巻四：『千金』97回　『明堂』92回　『明堂下経』87回　『銅人』84回　『甲乙』9回　『千金翼』8回　『本事方』4回　『集効方』3回　『難経疏』2回　『必用方』2回　『良方』2回．
巻五：『銅人』51回　『千金』53回　『明堂』49回　『明堂下経』73回　『甲乙』5回　『難経疏』2回　『史記』2回．
巻六：『銅人』85回　『千金』84回　『明堂』75回　『明堂下経』74回　『甲乙』10回　『千金翼』4回　『素問』3回　『甄權』2回　『本事方』7回．
巻七：『千金』56回　『銅人』45回　『明堂』40回　『明堂下経』25回　『千金翼』17回　『甲乙』9回　『本事方』4回　『難経疏』2回　『必用方』2回　『良方』2回　『単方歌』2回．

【考察】『資生経』全巻において，引用回数の多い文献は以下の通りであった．『明堂』503回　『千金』488回　『銅人』403回　『明堂下経』399回　『甲乙』80回　『素問』71回　『素注』53回　『千金翼』37回　『難経疏』24回　『本事方』18回　『集効方』11回　『指迷方』12回　『外台』11回　『明堂上』10回　『必用方』8回　『良方』6回　『単方歌』6回．

上記のうち，『明堂』『千金』『銅人』『明堂下経』などは，全巻において比較的均一に引用されているのに対し，その他の文献の引用には特徴が見られる．例えば『素問』は，巻一には多数引用されるが，巻二以降ではあまり引用されていないことや，『千金翼』は巻三以降に引用されていることなどである．また，全巻において一回しか引用されていない文献も少なくない．なお『難経疏』『陸氏続集験方』『耆域方』などの佚書が引用されているほか，王執中が著わして伝わらない『既効方』が見られることも注目される．

【結語】『資生経』には，40を超える文献からの引用が見られるが，その中でも『太平聖恵方』（明堂上・下経）『千金』『銅人』が主に引用され，『甲乙』『素問』『千金翼』『難経疏』などがこれに続いている．その一方，その他の文献の多くは，僅か数回の引用に止まる．今後は，引用文献の版本や，間接的な引用かどうかなど，より詳しく調査していきたいと考える．